

学校法人伊藤学園 山梨情報専門学校 学校自己評価結果報告書

令和元年度

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況等	課題	今後の改善方策
		優れている：3 適切：2 改善が必要：1			
1 教育 理念 ・ 目的 ・ 育成 人材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報・ビジネスに必要な専門知識、並びに技能を習得させ、新しい時代に適応できる、実務的能力を持った人材を育成することを目標として掲げ、情報社会に寄与できる人材の輩出を目指している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化の激しい業界なので、教職員の知識向上や学習環境の整備</li> <li>・理念等の周知が、学校説明会等の出席者にしか周知できない状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修等を積極的に利用し、知識の向上を図る</li> <li>・SNSを活用して周知を図る</li> </ul>
	1-2 学校の特色は何か	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校で学生と教職員との関係が密である。</li> <li>・マナー教育として、授業の開始・終了はもちろん、校内での挨拶、授業終了後の清掃（毎日）の徹底指導を行っている。</li> <li>・入学直後のオリエンテーションにおいて、新入生のみならず、保護者にも学生便覧を配布し、本校の学習内容、規則の周知徹底を図っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系列の他校との差別化を図るための独自性を模索中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携を深めて就職に有利な人材育成を強化</li> </ul>
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の知名度を上げるため、また、教職員の意識向上、企業が求める人材を育成することを目指すため、常に新しい技術に目を向け全職員がより質の高い授業を心掛ける</li> <li>・今後人材不足が叫ばれている分野（AI）の技術者の育成に力を入れる</li> <li>・育成したい分野を目指せる学生の獲得に力を入れる</li> </ul>		
2 学 校 運 営	2-4 運営方針は定められているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧に学則やシラバスを明確に記載し教員と学生が共通認識を持つ</li> <li>・校務分掌内でその役割を明確にしている</li> </ul>		
	2-5 事業計画は定められているか	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画は、毎年度作成することになっている「事業計画書」で、本校の円滑な運営と教育の充実に視点を置いた計画である</li> <li>・「事業報告書」において、その達成および進捗状況を報告している</li> </ul>		
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的または、必要に応じて会議を行っている</li> <li>・常勤講師で補えない科目に関しては、非常勤講師を適正に確保している</li> </ul>		
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の採用・休職・退職・免職の基準等また、人事考課、昇任・昇格の基準、賃金制度については学校法人の就業規則に明確に定められており、教職員に周知している</li> <li>・教科内容の変更に伴った人材の確保</li> <li>・まず実践させ、先輩職員が助言やフォローを行い不足部分を補う</li> <li>・様々な能力を持った人材を確保したいが、学生数の減少で人件費の確保が難しい</li> </ul>		
	2-8 意思決定システムは確立されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌により、業務内容・範囲の基本が示されている</li> <li>・各事案の立案や報告は分掌の責任者が行い、最終的に校長の承認を得ることにより確定事項となる</li> <li>・学則変更等の重要案件については、事前に理事長に具申し、理事会に付議されて決定している（結果は文書にて周知している）</li> </ul>		
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への伝言システムや出席管理システムのコンピュータ化を図っている</li> <li>・データ管理等で無駄を省く努力をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの老朽化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新システムへの移行を検討</li> </ul>

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況等	課題	今後の改善方策
		優れている：3 適切：2 改善が必要：1			
3 教育活動	3-10 各学科の教育目標・育人人材像は、その学科に対応する業界の人材・ニーズに向けて正しく方向付けられているか	2	・カリキュラム、時間数及び教育目標・育人人材像は、業界の動向を常に把握し、これを反映させたものとしている ・すべての業界においてコミュニケーション能力の不足が叫ばれているため、それを伸ばすための教育や指導を行っている		
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	1	・進級卒業の基準となる目標の検定を科ごとに定め取得を促す ・イベントや講演会に参加させ、業界の求める人材を学生個々に認識させる機会を設ける	・学生の基礎的能力の低下により、教育内容とのミスマッチがあり、修業年限内での目標到達が厳しい場合がある	・補習・補講を行い、学力の向上を図る
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	1	・目標到達を果たすための教育科目を体系的に作成している ・業界との接点がなかなか持てないが、就職活動に伴う企業訪問で個々の企業に必要な人材のスキルをお聞きし、カリキュラム作成の参考にしている ・毎年カリキュラムの見直しを行い、実社会に合う内容に変更している	・個々の教科および実習のつながりが希薄になる場合がある（横断的なカリキュラムが必要？） ・実践の現場から遠ざかっているものが多く、教育内容と実社会との現状がマッチしないことがある ・変化の激しい業界のため、教員のスキルアップを常に考えていかねばならないところ	・各教科ごとの担当教員に到達目標を明確に伝える ・外部研修の利用
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	1	・情報システム科の専門科目は、経産省の情報技術者試験シラバスに準拠した内容で、カリキュラムを設定 ・ビジネス実務科の専門科目は、各検定試験の出題範囲を基本に実務に生かせる技術をプラスした内容でカリキュラムを設定 ・科目ごとに到達目標を逆算し、授業内容を明確にしたシラバスの作成を行う	・業界自体変化が激しいので、授業内容もそれに伴い常に変化させているため、シラバスに反映させるタイミングが難しい	・年度末にシラバスの内容を検証し、次年度に反映させる
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3	・科目として組み込んでいる（ビジネスコミュニケーション・一般常識） ・就職先を訪問したり、ガイダンス等にて担当者に様子をたずね不備な点は教育や指導の見直しをする ・インターンシップを義務付け、1年時には必ず参加させる ・実社会を経験したことがないため、なかなか理解できない部分も多いが、話し方や内容を工夫し理解を少しでも深めてもらえるよう努力している		
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	1	・前後期末に授業ごとに授業内容や教授法の現状について学生対象にアンケートを実施し、担当教員にフィードバックして教育内容及び教授法の改善に努めている	・評価させる内容を精査しないと無意味な結果となる場合がある	・教員全員で、質問内容の確認・見直しを行う
	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	1	・教員採用では実務経験や教育歴を重視し、専門性を備えている教員を確保している ・財政的に厳しく、新しい教員の確保は難しいので、現在いる教員のスキルアップを目指している	・業界の進歩が目覚ましいのでそれに合わせたスキルアップが難しい	・イベント、講習会等への参加を積極的に行い、新しい知識を得ることを心掛ける
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	・成績評価・進級・卒業認定は学生便覧に明記し、入学時オリエンテーション・進級時オリエンテーションで周知している ・教員間でも（特に非常勤講師）学期の初めに周知徹底している		
3-18 資格取得の指導体制はあるか	3	・授業の中で検定試験に則した演習を行ったり、希望者に必要があれば、放課後等補講を行っている。			

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況等	課題	今後の改善方策
		優れている：3 適切：2 改善が必要：1			
4 教育 成果	4-19 就職率（卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職指導担当と担任が連携を取りながら進め、1年次の後半から学生一人一人に適した進路を検討させ、具体的行動に移させる</li> <li>・労働局より「無料職業紹介校」の指定を受けており、ハローワークなどの協力を得ながら就職先を決定している</li> <li>・定期的に企業訪問を行い、求人開拓をしている</li> </ul>	・年々学生の就職への意識が低下しているため、意識付けをどのように行うかが課題である	・保護者の協力を得て(面談等) 学生自身への意識付けを強化する
	4-20 資格取得率の向上が図られているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格者には検定料の一部を奨励費として還元する措置をとっている</li> <li>・検定取得を進級・卒業の基準になっており、教科担当の教員にも学生の受験を促すように努められている。</li> </ul>	・自発的に受験をする学生の減少がみられる（最低限の基準を満たせばよいと考えている学生が多い）	・履歴書を作成させ資格の重要性を自覚させる
	4-21 退学率の低減が図られているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、職員間で学生に関する情報共有を行うとともに、必要に応じて学生指導面接、個別学習サポート、保護者への連絡を密に取れる体制を整えている</li> <li>・経済的事情に関しては、分納・延納や奨学金などを進めるなどの措置を講じている</li> <li>・学力不振による退学申し出に関しては、補修等を行い到達目標をクリアできるように指導配慮している</li> </ul>	・学費面、学習面で大変な学生が増えているように感じる	・相談の場を設け、学生に寄り添う
	4-22 卒業生・在学生の社会的な活躍および評価を把握しているか	1	・同窓生名簿を作成し、可能な限り卒業生の現状を把握した	・現状では、特筆できる内容までは把握できていない	・連絡が取れる範囲で現状を調査する
5 学生 支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	1	・求人票の公開、就職ガイダンス（校内・校外）の案内、個別の指導などを常時行っている	・なかなか本心を見せないため、就職に関してどのような希望・考えを持っているのか把握できず、指導に支障をきたす場合がある	・保護者の協力を得て(面談等) 学生自身への意識付けを強化する
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後1・2か月たった時期に、担任が個別の面談を行い、学生個々の現状を確認している</li> <li>・必要に応じて、担任以外の教員とも協力をして指導をおこない、保護者にも協力をしていただいている</li> </ul>		
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援機構の奨学金制度の活用を促している</li> <li>・民間企業の教育ローンを勧めている</li> <li>・入学時授業料に関する保証人を選任させるなどの対応をしている</li> <li>・学費が滞る学生が多くなってきているので、早めの対応を心掛けている</li> </ul>		
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職時にも利用できるように、健康診断を実施している（春）</li> <li>・結果によっては、医療機関への受診をうながすなど適切な対応を行っている</li> </ul>		
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定期間活動を行えば次年度から助成金が支給される</li> <li>・現状では活動をしていない</li> </ul>		
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	・本校には学生寮が無いため、環境・セキュリティ・賃貸料等を調査し、民間施設についての情報提供を行っている。		
5-29 保護者と適切に連携しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時に保護者説明会を行い、教育方針、指導体制、相談体制等を理解していただいている。</li> <li>・年に4回ほど出席状況及び、学期末には合わせて成績状況を保護者あてに送付している</li> <li>・必要に応じて保護者面談等を行っている</li> </ul>			
5-30 卒業生への支援体制はあるか	2	・数年前より在校生に対し、メール配信を行っているため、そのシステムを利用し卒業後のフォロー体制も整備している			

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況等	課題	今後の改善方策
		優れている：3 適切：2 改善が必要：1			
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備の整備、運営管理、教育関連備品については責任者が計画的な整備を行い日常の管理に当たっている</li> <li>・情報教育の要であるパソコンやネットワークの環境については、責任者が、常に整備管理を行い、学生や職員にとって使いやすい環境を整えている</li> <li>・パソコン教室だけでなく、各教室にて実習の授業が行えるよう、プロジェクターとスクリーンの設置を行った</li> </ul>	・在校生の減少により、現状では新規パソコンの導入が難しい	・既存のものを有効活用できる工夫をする
	6-32 学外実習・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外活動として、新入生歓迎会・球技大会・2泊3日の修学旅行などがあり授業計画に組み込まれている、情報関連団体等が主催する講演会や展示発表会など教育上効果的な行事には、その都度計画をして参加するよう取り組みを行っている</li> <li>・インターンシップについては、1年次夏休みに3日以上期間で参加させている（必須事項）</li> </ul>		
	6-33 防災に対する体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防計画に基づき、毎年1回避難訓練を実施し、避難経路の確認と防災意識の向上に努めている</li> <li>・定期的に消防の設備点検を実施している</li> <li>・火災発生や暴風警報発令、地震注意情報が発表された場合などの災害時の避難経路を定め、学生便覧等で学生に周知している、さらに避難経路図を廊下、階段等に掲示している</li> </ul>		
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動については、職員会議等において活動方針を調整し、全職員理解の中で効率的な募集活動に努めている</li> <li>・学校案内パンフレットおよびホームページの作成、SNSでの発信、進学情報誌への参画、学校説明会の実施、進学ガイダンスへの参加により、適正に募集活動をおこなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の授業持ち時間数が多いため、学校訪問に時間が割けないのが現状である</li> <li>・学校説明会や、ガイダンスに来てくれた学生を出願につなげるためにはどのようにしていけばよいのか</li> </ul>	・教員の空き時間の確保を工夫する
	7-35 学生募集において、教育成果は正確に伝えられているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職実績は、学生募集活動に大きな影響を持つと考えられるので、学校案内パンフレットに第一線で活躍している卒業生を積極的に紹介している</li> <li>・就職後の活躍の様子などは、志望者はもちろん保護者や高等学校進路指導関係者などの高い関心が示されるところであり、学生募集上の訴求度を高める大きな要因にもなっている</li> </ul>		
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学にあたっての出願方法には、特待生入学、指定校推薦入学、推薦入学、一般入学、AO（アドミッションズ・オフィス）入学の5通りがあり、その詳細については募集要項に記載している</li> <li>・選考方法は次のようになっている <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書類審査（すべての入学制度で実施） 調査書記載の内容、特に欠席状況、評定平均値を点数化するとともに、資格取得状況、活動状況を考慮する</li> <li>2. 面接試験（AO入学を除くすべての入学制度で実施） 本校所定の面接項目にもとづいて、2名ないし3名の担当官が面接を行う。 面接官の点数の平均値を得点とする</li> <li>3. 適性試験（一般入学にて実施） コンピュータの関連知識を問う内容および、一部学力試験を含む内容</li> <li>4. 学力試験（特待生入学にて実施） 国語・英語・数学の筆記試験を実施</li> <li>5. オープンキャンパス・ガイダンスへの参加（AO入学に義務付け）</li> <li>6. AO入学面談（AO入学にて実施） 2名ないし3名の担当官が面談を行う、本校へ入学する志の高さを聴取する 人柄、コミュニケーション能力を把握する</li> </ol> </li> </ul>		
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学納金の設定においては、他の商業実務系専門学校の学費状況や社会情勢等のデータを収集し、分析し、加えて本校における収支計画案を勘案して設定している</li> <li>・学納金の決定は、基礎資料に基づき校内で協議し、最終的には学校法人理事会において、審議し決定している</li> <li>・学納金額は、他の私立商業実務系専門学校と比較すると平均値程度に設定されている</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	現状の取組状況等	課題	今後の改善方策
		優れている：3 適切：2 改善が必要：1			
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2	・学校法人伊藤学園の部門として、監査法人による会計監査を受けている ・過去数年、新入生減により、厳しい状況であるが、法人全体としては安定している		
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	・学校運営にかかわる予算について、具体的な各費目の大枠については、あらかじめ検討・承認された備品購入や施設設備の補修などに対する相当額で予算化し、学校法人伊藤学園法人本部にて最終検討したうえで、概算予算が決定される ・予算執行については、学校法人伊藤学園の経理規程・予算管理規程に従い承認された予算の各費目の枠内で執行担当が校長の承認を受けて執行する ・予算と実績の差異は定期的にチェックし、予算実績管理の精度向上に努める		
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	3	・学校法人本部の経理規定に則り、適正に学校会計処理が行われている ・公認会計士による学校会計監査および学園の内部監査が実施されている ・公認会計士からは、財務や学校会計について適切な助言をいただいている		
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	3	・学園ホームページにて一般公開している		
9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	・専修学校設置基準を遵守し、該当する各法令及び学則等諸規定に従い、種々の申請・届出・報告などの諸手続きを遅延なく確実に実施している ・規定などの新設あるいは変更などについてはその都度回覧を行い、教職員に周知している		
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	・個人情報保護法を遵守し、できる限り教職員および学生データの漏洩や不法侵入がないように教職員に対して周知徹底して注意を促している（詳細については個人情報保護規定等で定めている） ・電子データの管理の不法侵入対策は厳重にウィルス対策を行うとともに、担当者がサーバーを管理している ・紙データの書類管理については職員室、事務室その他で施錠保管、倉庫保管で分けけて厳重に保管している ・今後もセキュリティ強化並びに個人情報保護対策に向け、さらなる拡充を図っていく ・学生から個人情報に該当する情報を収集する場合は、趣旨・目的などを説明し、承諾を受けたいうで実施している		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2	・学校自己点検・自己評価は、学校運営において日常的に励行できていない事項やチェック・確認が行き届かない事項について、確認・協議・検討・改善などを行う最適の機会であると位置づけてる ・学科ごとに定期の自己点検・評価を実施し、自己評価委員会が抽出した諸項目のチェック・確認とともに、項目によってはPDCAサイクルにより改善の契機としている		
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	2	・令和2年度よりホームページにて公開予定		
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	・県の労政雇用課主導で行っている、「離転職者訓練」のうち、パソコン活用講座を年1回以上実施し、受講者の再就職に向けてのキャリアコンサルティング、資格取得、知識や技術の習得の手助けを行っている ・ポリテクセンター山梨が募集している、「IT活用力セミナー」を申請し、企業内従業員へのパソコン講座の指導を行い、実務に役立つ技術の向上に貢献している		
	10-47 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	2	・ボランティア活動については、学校全体で理解を示していき、募集の掲示も積極的に受け入れている ・活動については学生一人一人の自主性に任せることを基本とし、奨励している		